



雑貨で“和”の札幌ブランドを確立し 世界に発信したい

オーリックワールド(有)

代表取締役 近江 秀朗(おおみ・ひであき)氏

札幌市出身、家業である日本舞踊の小道具屋に30年間勤めた後、スーパー、保険会社の営業を経て昨年9月に起業のため創業ビレッジに入所。

今までにない斬新で新しい
“和”を世界に発信したい

日本の伝統的な“和”雑貨を新たな視点でプロデュースし販売するのは、オーリックワールド(有)代表取締役の近江秀朗さん。

同社の扱う商品の特徴は、和雑貨のパッケージ化だ。ただ雑貨を単品で販売するのではなく、例えばひとつの箱に雑貨を詰め合わせ、童話の世界を表現するなど新しい形のギフトを販売する。

実家は日本舞踊の小道具屋ということもあり、気づいたら“和”の世界に浸っていたという。高校卒業後、家業に就職し三十年間勤めるが、「ご存知の通り、日本舞踊は伝統芸能で、「この踊りにはこの道具」など、すでに決まっているものが多く、そこに興味を持って人だけの世界観”がありました。そこで、もっと違う視点やデザインで“和”の魅力を自分なりに提案したいと思い、独立を決意しました」(近江社長)。

家業を辞めてからは、経営者となるため、スーパーに転職し、流通や接客を一通り学んだあと、営業力を身につけるため、生命保険会社に転職するなど創業に至るまで、さまざまな職種で

経験を積んだ。

「創業するにあたり、自分に足りないものは何か、実現のためには何をしたらいいかを常に考えて進んできました。辛いとか諦めたいかと思ったことはありません。前職でも、皆のやりたくない仕事を率先してやってきました。それが自分に必要だと思っていたからです。とにかく自分の夢を実現するため、立ち止まらず前へ進むことだけを考えていました」。

そういった経験を経て、たまたま手にとったチラシで、当所の創業ビレッジの存在を知り入所した。

健全な経営を目指し、働く人たちが安心できる会社になりたい

近江社長の経営者としてのモットーは「借金をしない経営」だ。「時間ばかりですが、資金力をつけることで、今後、従業員とその家族が安心して暮らせる健全な経営環境をつくっていきたくて考えています」。

また、和雑貨のギフトボックスを制作する手



わが社は
これで勝負!!

童話「花さかじいさん」に見立てたギフトボックス

プレゼントされた人が思わず笑顔になる童話に見立てたギフトボックス。現在はインターネットで販売している。今後、「シンデレラ」など、さまざまなストーリーのギフトボックスを展開予定。

住所：札幌市中央区北1条西2丁目1-1
北海道経済センタービル1F(札商創業ビレッジ内)
TEL:011-231-1768 FAX:011-222-9540

作業は、市内の高齢者に任せたいと、現在札幌市やハローワークに相談しているところだ。

「年金生活を送る高齢者の中には、生活が苦しく家に引きこもりがちな方々もいらつしやいます。仕事をすることで、収入を得て、おいしいものを食べたり旅行をしてみたりと、生きがいを持ってもらうことができそうです」と近江社長は語る。

同社の今後の展開を伺ったところ、「当面はネット販売を中心に、その後は実店舗も展開します。今は既存の商品を仕入れるだけですが、軌道に乗れば、自分でデザインを手掛け、今までにない斬新な“和の札幌ブランド”となるような雑貨を世界に提案・発信していくつもりです」と力強く語った。